

## 小泉政務官ぶら下がり会見

(平成27年8月23日(日) 17:05~17:10 於) 岩手県久慈市)

### 1. 質疑応答

(問) まず率直に本日のトークを終えての感想をお聞かせ願いたいんですが。

(答) すばらしかった。もう期待以上。一番こういってことで期待しているのは、この「ふるさとトーク」という場を通じて幅広い世代と多様なプレーヤーが集まって、それが次の行動につながってほしいと。何か1回集まって来たからやったよねということで終わらない。それがこんなに理想的に次につながった例って多分ないと思うんです。だから、すごくうれしいです。

それを受けとめてくれた山本さんもそうだし、その口火を切ってくれた隣の成田さんもそうだし、何かみんなでしなきゃとか、こういった場が必要だったという思いがもともとあったんでしょね。そのもともとあった思いを引き出すことはできたのかな。これからの取り組みにすごく期待しています。もしかしたら、本当に「くじ」に何かとか思われるかもね。

(問) 実際こういうお話を聞くと、同じような考えって各自治体さんでやられても出てくると思うんですけども、今回は次もそういう場を設けてという地元の声がありましたけれども、政務官から見て次のステップに必要なものというものの、具体的に何かありますか。

(答) 次のステップに必要なもの、まずこういった場を誰がしてくれるのかというのはすごくあると思うんです。1,700の自治体に僕が全部行ってこういうことができるわけじゃないですから、そうすると、その地域地域にこういった場づくりや今の最近のはやり言葉みたいなことと言えば、ファシリテーターだったり、コーディネーターだったり、そういった人をつなぐ、組織をつなぐ、地域をつなぐ、この「つなぐ」というのは本当にキーワードだと思うんです。

最近、僕もいろいろな人をつなぐということをやったりするんですけども、政治家の新しい役割の一つに、自分が何をすることだけじゃなくて、何かを起こせる人同士をつなぐ役割、政治家のつなぐ力というのもこれからはすごく必要なんだろうなと。

それは、実はこういったまちづくりに関しては、国会議員じゃなくてもいいんです。地域の地方議員の皆さん、あとは地方の行政、こういったところができるところというのは、これからまだまだあるんじゃないかなと、そう思っています。

(問) 午前中に葛巻のほうでクリーンエネルギーのほうを視察されたと思うんですけども、その御所感と今後の取り組み、具体的にもし何かございましたらお聞かせください。

(答) 葛巻は本当に感動しました。昨日グリーンページに泊まったんですけども、部屋の中に葛巻のことを元日経新聞の記者さんが本として書いているんですけども、そういった葛巻について書かれている本が部屋の中に置いてあるんです。僕自然と、それ手にとって、夜気づいたら1冊読んじゃったんです。

それから、今日ずっと町長に案内されながら、いろいろな話を聞いている中で、葛巻は震災、原発事故後に新しい日本のエネルギーのあり方に大きなメッセージを投げかけている「葛巻モデル」とも言ってもいい、そういったことをより全国に、世界に発信できる力を持っていると確信しました。何か、より後押しできることがないのか、私個人的にも考えてみたいなと思う。すごく画期的、先駆的なモデルだと思います。もっともっと葛巻の皆さんには、今取り組んでいる方向性、まちづくり、自信を持ってもらいたいと思います。

(問) 久慈も東日本大震災の被災地なんですけど、今日みたいな地域づくりに、被災地がこれからどう取り組んでいけばよろしいでしょうか。

(答) まさに今日の議論の中にあっただように、「あまちゃん」ブームも、いつまでもあの水準では続かないし、そして東日本大震災の被災地ということで例えば応援しようとか、そういったこともいつまでも続くわけじゃないので、問われているのはもともと持っている地域の活力、魅力、個性をどこまで高みに上げて、それをまちづくりや観光や地域の活性化につなげていけるかということだと思いますので、久慈には物凄いほかの地域がまねしようたってまねられない琥珀や闘牛や「あまちゃん」含めて、久慈にしかないものもいっぱいありますから、これをさらに磨いて、今日の話に出た「久慈」という名前だけに「くじ」に着目する新たな取り組みだとか、海の魅力はある程度活用されているけれども、まだ山の魅力が発掘し切っていないとしたら、そういったところも通じて、季節を問わず人が訪れたいくなる、そして地域の方々は1年通じて自分たちのまちに自信を持てる、そんな久慈になっていくことを期待しています。どうもありがとうございました。

(以 上)